



## めがねはどうしてくもるの

### 空気中に水蒸気がある

水が気体の水蒸気になることを、水の蒸発といいます。水がふっとしているときは、水がさかんに蒸発しています。水がふっとしていなくても、水の表面から、たえず少しずつ蒸発しています。

水は、海や湖、川や池、地面などのあらゆる所から、たえず蒸発しています。また、わたしたちの生活の中では、水を利用することが多いので、空気中には、いつも水蒸気がふくまれています。また、空気中にふくまれる水蒸気は、温度が高いほうが多くふくむことができます。

### 水蒸気が水のつぶになって、めがねにつくから

水蒸気は冷やされると、水に変わります。めがねがくもるのは、空気中の水蒸気がめがねのガラスで冷やされて、小さな水の子つぶになって、めがねのガラスにつくからです。

ふる場にめがねをかけて入ると、ふつうの部屋にいるときよりもめがねがくもって、まわりが見えなくなります。ふる場の空気には、たくさんの水蒸気がふくまれているので、めがねがよけいにくもってしまいます。

また、晴れている日よりも、雨の日のほうが、空気中にふくまれている水蒸気の量が多いので、めがねがよくもります。（監修・青木 国夫）

